

命の天秤

西原町立西原中学校三年 赤嶺 仁

花が散った。

今日もどこかで散って枯れた。

人が死んだ。

今日もどこかで声が絶えた。

花が芽吹いた。

今日もどこかで花が芽吹いた。

人が生まれた。

今日もどこかで声があがった。

地球は回る。

今日も明日もその次の日も

私達をのせて、

命の天秤に私達をかけて、

生と死に釣り合いをもたせて、

バランスが零れ落ちないように、

自然を支えて地球は廻る。

バランスが崩れた。

それは地球を支えるためにはあまりに突然で、

死に命の天秤が傾いた。

それは戦争。

75年前に起きてしまった正義の悪用による武力

の発作。

生の天秤には涙があふれた、

残された人々の嘆きがのしかかった、

それでも足りなかった。

それでも天秤は釣り合わなかった。

どれだけ泣いても、

苦しんでも、声を枯らそうとも、

死んでいった人は戻ってこないのだから。

臆病者の過剰防衛のせいで

多くの命が亡くなったのだ。

なぜ？ばかりが頭を駆け巡る。

声に出しても誰も答えてはくれない。

だれも答えを知らない。

自分の無力さを感じてしまう。

自分なんていなくても何も変わらないのでは？

と思う夜もある。

そして、その度気付かされる。

小さな幸せ、小さな悩み、小さな悲しみ

大きな幸せ、大きな悩み、大きな悲しみ

それを感じられるこの日々は素晴らしいものだ

と。生きなければと。

正直「世界平和」と言われても

何から始めたら良いかなんて分からないし人を

大切にしないとイケないということは分かっ

ているけど、

人を傷付けたことは無いとは言えない。

そんな自分が平和について語る権利があるのか

と疑問に思ってしまう。

それでも、そんな自分だからこそ、

平和について考えなければいけないと思う

誰も傷付けない、誰にも傷つけられない人はき

と平和の作り方を知っているだろう

でも、そんな人はいない。

人は関わり合っていく上で傷付き、傷付けられ

る。

だからこそ、人を傷付けてしまうからこそ、

傷付けた分だけ考えなければならぬ。

考え続けなければならぬ。

人との触れ合い方や言葉について

考え続けなければならぬ。

そしてその先、

平和を考え続けたその向こう側に、確かな最善

があるかもしれない。

人間は愚かな事をしたが根っこには人を思いや

る心がある。

その心を育てていくことで平和な世の中、社会

が芽吹くかもしれない。

だからぼくは生きていく。

平和な未来のために。